

令和2年度
半田病院経営委員会
会議録

つるぎ町立半田病院

開催場所	つるぎ町立半田病院 3階 大会議室
開催日時	令和2年7月10日(金) 午後2時～午後5時
出席者	<p>○委員長：中園 雅彦（つるぎ町立半田病院 病院長）</p> <p>○委員：</p> <p>谷田 一久（㈱ホスピタルマネジメント研究所 代表取締役）</p> <p>掛田 英樹（徳島県立三好病院 事務局長）</p> <p>平尾 壮作（三好市立三野病院 事務長）</p> <p>伊庭 佳代（つるぎ町 住民代表）</p> <p>竹田 慶子（つるぎ町 住民代表）</p> <p>仁木 俊助（つるぎ町立半田病院 副院長）</p> <p>中矢 修一郎（つるぎ町立半田病院 副院長）</p> <p>岸 由希枝（つるぎ町立半田病院 看護部長）</p> <p>丸笹 寿也（つるぎ町立半田病院 事務長）</p> <p>藤浦 大輔（つるぎ町立半田病院 職員労働組合代表）</p> <p>○講師：谷田 一久</p> <p>○管理者：須藤 泰史</p> <p>○オブザーバー：</p> <p>【診療部】並川診療部長・木村診療部長・土肥診療部長・永井医長</p> <p>【看護部】真鍋次長・寒川師長・西川師長・大浦師長・黄田主任 知野主任・浦森主任・畠中主任・住友主任・松浦主任・岡本主任</p> <p>【診療支援部】橋本薬剤科長・西谷検査科長・林放射線技師長 割石臨床工学科主任・片岡栄養管理科主任・国見リハビリ主任 池森主任薬剤師</p> <p>【管理部総務課】猪岡課長・加藤係長・大和田係長・西村主任</p> <p>【管理部医事課】逢坂課長・矢野主幹・大谷主幹・西木係長・折目係長 田村係長</p>
審議事項	<p>I 令和元年度 病院事業報告について</p> <p>II 令和2年度 病院事業計画について</p> <p>III 半田病院「新公立病院改革プラン」検証 その他</p>
議事要旨	次のとおり

令和2年度 半田病院経営委員会 会議録
【14時開会】

1. 開会（逢坂課長）
2. 管理者あいさつ（須藤管理者）
3. 講演「コロナ感染が教えてくれた医療の役割」
講師 株式会社ホスピタルマネジメント研究所
代表取締役 谷田 一久 氏（～15：20）
4. 委員の紹介
5. 審議事項
 - I 令和元年度 病院事業報告
 - 1 総括事項（西村主任報告）
 - 2 入院・外来患者の動向（西村主任報告）
 - （1）入院患者数の推移（ 〃 ）
 - （2）新規入院患者数・平均在院日数・病床稼働率の推移（ 〃 ）
 - （3）外来患者及び健診者数の推移（ 〃 ）
 - （4）人口動態及び地域別外来患者実数の推移（ 〃 ）
 - （5）徳島県西部医療圏におけるシェア（ 〃 ）
 - 3 収支決算及び資金収支（西村主任報告）
 - （1）令和元年度 決算損益計算書（ 〃 ）
 - （2）比較貸借対照表（ 〃 ）
 - （3）令和元年度 病院事業決算明細書（ 〃 ）
 - （4）令和元年度 キャッシュフロー計算書（ 〃 ）
 - （5）収支状況等の推移（ 〃 ）
 - （6）人件費等の推移（ 〃 ）

(中園委員長)

ありがとうございました。西村主任から令和元年度病院事業決算報告をいただきました。西村主任の方からもありましたように、今、健診が非常に伸びていまして、健診というのは地域の方々の健康維持・増進へも寄与できる事業であるとともに、今後、当院の経営基盤の一つとなる重要な事業であると認識しております。現在、健診実施日の増加に向け、協議をしているところでございます。

それでは、続きまして令和2年度病院事業計画について、ご報告をお願いいたします。

II 令和2年度 病院事業計画

1 事業計画（猪岡課長報告）

2 令和2年度 病院事業会計予算実施計画書（猪岡課長報告）

◎質疑等

(中園委員長)

猪岡課長ありがとうございました。令和2年度病院事業計画につきましてご報告をいただきました。先程の谷田委員のご講演の中にもありましたように、これから新型コロナウイルス感染症の影響によって、入院・外来ともに患者数の減少は明らかでありまして、冬場にインフルエンザと流行期が重なった場合には、ひどく落ち込むことが予想されます。それに対して対応できる、若しくは、安心な医療を地域の皆様に与えられる病院に変化していく必要があると感じています。

それでは、最後の新公立病院改革プランの検証へと移りたいと思います。

西村主任お願いします。

III 半田病院「新公立病院改革プラン」検証

- 1 基本方針（西村主任報告）
- 2 地域医療構想を踏まえた役割の明確化（西村主任報告）
- 3 経営の効率化（西村主任報告）
- 4 再編・ネットワーク化（西村主任報告）
- 5 経営形態の見直し（西村主任報告）

◎質疑等

（中園委員長）

西村主任ありがとうございました。

報告にもありましたように、計画当初と比較すると医師数の減少に伴い、若干の医療提供体制の縮小が見られます。また、医師数の減少に関連して、前年度、谷田委員から助言をいただいた救急患者の受入体制の強化においても、思うような成果は得られず、救急患者受入件数は右肩下がりの傾向が続いており、早急な改善が必要であると感じております。

どなたか、ご意見・ご質問等ございませんでしょうか。

（谷田委員）

令和元年度の病院事業決算をお聞きしまして、令和元年度の純利益は 8,047 千円であると、儲けすぎてもいけないし、赤字を出しすぎてもいけない、公立病院としてはこれ以上ない理想的な結果だと思えます。年度途中でキャッシュが回らない事態となり、90,000 千円の繰入補正予算を要求したと、収益補填ということだと思うのですが、全て基準内であると。ある程度の健全性は保たれているような気がします。ただ、交付金の使い道としては少々弱いですね。特に、救急医療の実績が得られていない現状、このあたり、もう少し適正な用途の再検証をなさった方がよろしいかと思えます。

半田病院は、地域でも特殊性を持った医療機能がありますよね。透析・内視鏡、更には、周産期・小児医療といった他の医療機関では担えない医療を提供していると、こういった半田病院にしかできないことを全面に打ち出しながら、また、これだけに偏らないこと。報告でもありましたように、総合病院である強みを活か

す、それこそが町民の皆様にとってより良い病院の在り方になっていくと思います。

(中園委員長)

ありがとうございます。地域の皆様方の期待に応えられるよう、医療体制の維持・強化に努めて参りたいと思います。

他に何かございますでしょうか。

(掛田委員)

西村主任から、診療材料費が前年度比大きく減少しているのご報告をいただきました。患者1人当たりの診療材料費も減少傾向にあるのでしょうか。

(西村主任)

診療材料費においては、手術件数の減少からか、入院では1人当たり材料費は減少傾向にございます。ただ、外来においては、材料をあまり使用しない内科患者数の減少が顕著であり、逆に、内視鏡や透析などの材料を多く要する部門が上向きのため、外来の1人当たり材料費は増加をしている状況です。

(掛田委員)

ありがとうございます。三好病院においても、年々材料費の1人当たり単価は増加をしている状況です。やはり、立地が徳島県西部というのも、徳島県東部と比べると不利な条件の一つだと思います。是非、折り合いが付きましたら、西部公立3病院の協定に示している「診療材料・医療機器の協同調達」の実現に向け、取り組んでいければと考えております。

西村主任にもう1点お伺いしたいのですが、半田病院さんの方で、本当に小さいことでも構いませんので、経費削減に向け何か工夫をしてらっしゃることがありましたら、ご教示いただきたいのですが。

(西村主任)

まず、診療材料費においては、三好病院さん程のきっちりとしたSPDシステムではありませんが、当院においても独自で作成したSPDシステムにて診療材料の管理をしております。診療材料は、15年程前から企業努力をお願いしており、現在、当院のみの力では下げ止まりの状態です。闇雲に動きますと、単価契約の増加を招く恐れがありますので、現

状は身動きが取れない状況でございます。これに変わる削減手段として、今年度より消耗品のシステム管理に挑戦をしております。職員数も増加してきており、使用する消耗品も自然と増加してきている状況で、この10年間で消耗品費は30%超増加をしています。これを、抑えるための手段の一つとして、今回、消耗品のシステムを構築し、各部署の使用履歴の迅速な把握による、削減策の提案に繋がればと考えているところでございます。

(掛田委員)

ありがとうございます。三好病院においても、在庫管理や業務委託の見直しに取り組んでおりますが、なかなか良い結果が得られていないのが現状です。是非、情報共有ができればと考えております。三好病院が一つ工夫していることは、輸液や診療材料を購入した際に出る段ボールですね、こちらを単に廃棄物として出すのではなく、廃品回収へ回すことで、若干ではありますが利益になっております。無駄を無くしつつ、利益が出るものは見逃さない、ご参考になればと思います。

(中園委員長)

ありがとうございました。

平尾委員、お願いできますか。

(平尾委員)

事業報告で地域包括ケア病床の稼働率が減少傾向にあるとお聞きしました。三野病院においては、地域包括ケアを病棟単位で運営しておりますが、当院においても年々稼働率の減少が顕著なものとなってきております。これは、地域住民の皆様がお元気であるとの考え方もできるのですが、やはり病院運営に大きく影響を及ぼす指標でございますので、早急な改善が必要であると受け止めています。今後においても、このような場を定期的に持ちながら、西部公立3病院で連携を深めていければと考えております。

(中園委員長)

ありがとうございます。当院におきましても、地域包括ケア病床の運営は少々苦慮しているところでございます。地域包括ケアシステムの構築に向け、引き続き連携の強化へ取り組んでいきたいと考えております。

他にどなたか意見ありますでしょうか。中矢委員どうでしょうか。

(中矢委員)

人口が減少して病院経営だけでなく、地方の経済も成り立たなくなってきたところ、新型コロナウイルス感染症が猛威を振るい、その速度は益々加速しつつあります。病院の運営資金は限られており、国や地方自治体の資金力も枯渇してきています。地方で良好な運営を行うためには、お金が上手く地域で回ることが必要と思われれます。今後、病院や地方公共団体が生き残っていくためには、限られた資金を十分以上に活用することを考える必要があると考えます。

(中園委員長)

ありがとうございます。

続いて、仁木委員お願いします。

(仁木委員)

外科は、従来の2名体制から、平成28年度末の人事異動に伴い、平成29年度から私1名での体制が続いております。これまで、患者数の維持に努めて参りましたが、令和元年度は大きく減少する結果となり、体力的に少々厳しくなっているというのが本音でございます。救急患者の受入件数も減少傾向にございますが、現在の医療は、非常に機能分化が進んでおり、治療一つ一つに細かな専門分野が発展してきております。患者さんがより良い適切な医療をお受けしていただくことを考えると、全ての救急をお受けすることは難しくなっているというのも現状です。今後は、若干の診療体制縮小も視野に入れながらも、他の診療科との連携を密に、病院運営に携わっていただければと考えています。

(中園委員長)

ありがとうございます。仁木委員には、外来・入院・手術と1名体制で対応をしていただいております。早急な体制改善が必要と感じております。

続いて、住民代表の竹田委員お願いできますか。

(竹田委員)

本年もこのような会にお招きいただき、ありがとうございます。何かと、新型コロナウイルス感染症の影響で生活に制限がかけられているような状況で、公民館活動などの行事ごとが、軒並み中止となり人と接する機会も段々薄れてきてしまっています。私は、地域の高齢者の見守り

活動も行っているのですが、訪問もままならず、感染予防の観点から病院への通院があまりできていないお年寄りの方がいることを不安に思っています。また、家族が入院した場合においても、面会制限で家族に会えないといった状況が続いており、早く新型コロナウイルス感染症の終息を願っています。職員の皆様は、感染と隣り合わせで、毎日神経を尖らせながらの業務、本当に感謝しております。今後も、安心してかかることのできる病院を作っていくて下さい。

(中園委員長)

ありがとうございます。今後も、院内の感染対策の強化へ引き続き取り組み、地域住民の皆様が、安心して通える半田病院の構築を図って参ります。

伊庭委員お願いできますでしょうか。

(伊庭委員)

今般の新型コロナウイルス感染症の蔓延で感じたのは、病院というところは、非常に多岐に渡る役割があるのだと、改めて実感をしております。ご報告にもありましたように、病院は病気を治すだけでなく、健診でも地域の方々の健康を守ることができるのだと、今後も、地域に寄り添った病院運営を期待しています。

(中園委員長)

ありがとうございます。

続いて、半田病院労働組合代表の藤浦委員お願いします。

(藤浦委員)

このような場で発言する機会をいただき、ありがとうございます。私たち組合は、笑顔で働き続けることができる職場の構築を目標に活動しています。そのためには、病院で働く組合員にとって働きやすい労働条件や労働環境が整えられることが必要であると考えており、部署の垣根を超えて、少しでも働きやすい職場環境になればと、定期的に話し合いを行っています。今年の3月、組合員に例年行っているアンケートを行いました。新型コロナの影響もある中ではありますが、組合員の大半を占める看護部で昨年と比べ、働きやすい環境へ上向いている回答を得ることができました。これは産休・育休・病休者の復帰や看護部長さんの配慮のおかげであると思われれます。心より感謝しております。ありがと

うございました。新型コロナウイルスの第2波が懸念される中、今後、病院内で新型コロナウイルス感染者を診療したり、看護したりする場面が出てくるかもしれません。そんな中、6月26日に徳島県で医療機関等へ支援する「徳島県医療従事者支援事業」が創設されました。また、7月6日には徳島県議会にて6月の補正予算が通り、医療従事者支援として数億円のお金も確保されているようです。今後、新型コロナウイルス感染者への対応、看護、治療などをしなければいけない場面が来た際には、徳島県の医療従事者支援事業へ沿った対応をしていただきたいと思います。最後に、私たち組合員は町立病院の使命である、「町民の命と健康を守る」ために日々、努力しております。各組合員が持っている知識と技術、経験を遺憾なく発揮することで質の高い医療、看護を提供できると考えております。今後とも当局の方々には、できるだけ多くの組合員が笑顔で働き続けられる職場づくりにご協力いただきたいと思います。どうかよろしく願いいたします。ご清聴ありがとうございます。

(丸笹委員)

香川県のさぬき市民・高松市立みんな・坂出市立の各病院が共同開催している病院経営ゼミの「谷田ゼミ」に、当院も参加させていただいておりますが、その際に谷田委員から「半田病院の理想の姿は」という質問がありました。私は、病院の実情も考え「収益があり、健全経営の病院」と答えました。谷田委員からは「公立病院として収益だけを考えるのは悲しいことです」と話していただいたことを思い出しました。確かに減少傾向にあります。今でも、外来7万・入院3万人の患者さんが当院を利用されています。これからは、公立病院の責務の実現と、利用していただける患者さんとの信頼関係を築き、愛される病院を目指したいと考えています。もちろん、収益をあげることも重要です。開設者であるつるぎ町とも連携しながら、地域と共に歩む病院にしたいと考えていますので、どうぞよろしく願いいたします。

(岸委員)

ファーストレベル研修で谷田委員の講義を受け、今もまたこのような形で講義を受けられていることを大変嬉しく思います。

今回の内容にもありましたように、人件費が高くなっているというこ

と。看護師は100人程おり、病院の中で1番大きな組織ですが、産休育休で12人程休んでいました。今年7月までに復帰してくれましたが、その休みを、現場で勤務している者は一生懸命カバーをしています。私達の時代は、産休終わるとすぐに復帰していましたが、今は、3年休む職員もいますので、夜勤人員など確保するのが困難な状況です。ただ、若い職員が多いというのは活気があり喜ばしいことだと思います。限られた人数の中で、有効な人員配置を考えながら、触発される親しい仲間がいて、やりがいがある仕事があり、精神的にも物理的にも報われる職場を作るよう努力していきたいと思っています。

(中園委員長)

ありがとうございました。

それでは、最後に須藤管理者より一言いただきたいと思います。よろしくをお願いします。

(須藤管理者)

谷田委員からは、いろいろなご指摘をいただきありがとうございました。交付金が適正に使われているかに関しましては、交付金というものが、真っ当な医療を行っても赤字の出る不採算医療、例えば、救急医療や小児医療などへの補助であることからすると、当院の医業収益が減少していることへの単なる補助として交付金を充てているのは、どうなのかとのご指摘、また、救急医療の実績が減っていることに関しては、地域の医療を支える病院として、交付金を頂戴していることからしてもどうなのかと苦言をいただきました。交付金を頂いている身としては、真摯に受け止めるべきことだと思います。しかし、救急医療に関しては、先程、仁木委員が述べられたように、今の医療は非常に専門化が進んでおり、広く浅くなら診療可能であるのですが、専門的になると難しくなるため、全ての救急をお受けすることは難しくなっています。ただ、当院を入院・外来と利用されている方が、つるぎ町に止まらず、県西部の広い範囲から利用していただいていることで地域には貢献できているのではと思っています。

県立三好病院の掛田委員からは、在庫管理や、業務委託の見直し推奨。また、段ボール箱をゴミ捨てすることなく、廃品回収へ

出すことで収益への貢献に繋がる事例をご教示いただきました。当院でも年に1回、QC（クオリティーコントロール）活動を通じて、院内で無駄を無くし、経費削減をしている事例の報告会があります。

市立三野病院の平尾委員からは、当院と同じく地域包括ケア病床の運用でご苦労されている報告をいただきました。当院では、市立三野病院さんが、県立三好病院さんの特に整形外科と上手く連携されていて、多数の患者さんを受け入れられていることを伺っており、今後も参考にさせていただきたいと思っております。

また、住民代表として竹田委員からは、コロナ禍で公民館活動ができず、高齢者の訪問もままならず、病院へ通院していないお年寄りがいることは心配であると、また、入院しても面会制限で家族も会えないようになっていることも心配であるとお聞きしました。ご指摘いただいた安心してかかることのできる病院でありたいと思っています。伊庭委員よりは、地域に寄り添った病院、健康を守る病院になってほしいとエールをいただきました。ありがとうございました。

組合代表の藤浦委員からは、アンケート調査の結果から「働きやすい職場になりつつある」と、報告をいただきました。ありがとうございます。

以上の多数のご意見を参考にして、中園病院長を中心に半田病院が良くなっていくことを信じています。本日はありがとうございました。

（中園委員長）

ありがとうございました。

それでは、皆様長時間お疲れ様でした。ありがとうございました。来年もよろしくお願い申し上げます。